

あかり・光の基盤技術とデータ活用による新しい価値の創造 New Value Created via Collaboration of Fundamental Lighting Technologies and IoT data

巻頭言

Lighting 5.0を実現する 新しい照明の価値創造

High-Value-Added Lighting Solutions for Realization of Lighting 5.0
Next-Generation Lighting Concept



西原 隆史
NISHIHARA Takashi

照明技術の進化は、東芝ライテック(株)も参画する一般社団法人 日本照明工業会が提唱・定義する Lighting 5.0までの歴史を通じて顕著に見られます。Lighting 2.0は、照明の普及の始まりであるエジソンの白熱電球を指します。次のLighting 3.0では放電灯が登場し、より効率的な照明が可能となりました。Lighting 4.0ではLED(発光ダイオード)照明が普及し、エネルギー効率の向上と長寿命化が実現されました。そして現在のLighting 5.0は、従来の照明の枠を超え、“健康”、“安全”、“快適”、“便利”という付加価値を提供する次世代照明として定義されています。

照明は、必需品でありながら、あって当たり前の存在と見られがちです。従来の照明の更新を促すためには、高い付加価値を持った製品を提供し、その価値をお客様にご理解いただく必要があります。当社の使命は、新しい照明の価値を提案できる製品やサービスを製品化することであると考えています。

当社は、1890年に白熱電球を、1940年には放電灯である蛍光灯を、いずれも我が国で最初に製品化しました。そのほかにも、多くの日本初や世界初の製品を実現してきました。こうした歴史を引き継ぐ当社の中には、次世代の“東芝ライテックらしさ”を体現する技術やアイデアが多く存在します。これらを生かして、今後はLighting 5.0に対応する商材やシステムの開発に注力します。IoT(Internet of Things)技術やセンサー技術などにより、データを活用した高付加価値照明やエネルギー効率の最適化を行います。更に、一層地球環境に優しい照明ソリューションを提供するために、リサイクル可能な材料を使用し、製品ライフサイクル全体での環境負荷評価を行うことで、地球環境への影響を最小限に抑えます。このように、積極的に採用いただける高付加価値な製品を絶え間なく提供します。

この特集では、創業以来培ってきた照明技術を基盤としながら、Lighting 5.0の概念を実現する“光を起点とした新たなアプリケーションやソリューションの提供”についてご紹介します。当社は、照明技術と光の可能性の未来を切り開き、豊かな社会の実現と社会課題の解決に貢献してまいります。

東芝ライテック(株) 取締役社長
President and Chief Executive Officer, Toshiba Lighting & Technology Corp.